

## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
未払配当金の支払い、 支払明細発行のお問い合 わせ先・郵便物送付先 <sup>※1</sup>	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711(通話料無料)
特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
特別口座に記録された株式に 関する各種お手続きのお問い 合わせ先・郵便物送付先 <sup>※2</sup>	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324(通話料無料)
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむ を得ない事由によって電子公告による公告をす ることができない場合は、日本経済新聞に掲載 して行う。
公告掲載アドレス	<a href="http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6724/6724.html">http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6724/6724.html</a>

※1 住所氏名変更・配当金振込先指定(変更)等の事務手続きについては、お取引の証券会社等にお問い合わせの上、所定の変更届等を提出してください。

※2 なお、特別口座にて管理されている単元未満株式(100株未満)の買取りの際には、買取請求書を上記「みずほ信託銀行株式会社 証券代行部」にご請求の上、同行にて所定の手続きを行ってください。

## 定時株主総会決議ご通知に関するお知らせ

株主総会の決議結果のお知らせにつきましては、第70回定時株主総会より、これまでの郵送から、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.epson.jp/IR/>)での掲載に替えさせていただきます。

何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

## Contents

経営理念・連結財務ハイライト p.1

ごあいさつ p.2

## 特集「SE15後期 中期経営計画」 長期ビジョン「SE15」の 実現に向けて **新たな成長に向けて 加速する** p.3

事業セグメント別の概況 p.7

環境活動：エコプロダクツ2011出展報告 p.9

会社情報／株式情報 p.10

株主メモ 裏表紙

セイコーエプソン株式会社

2012年3月期  
**株主通信**

2011年4月1日～2012年3月31日

セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5  
Tel: 0266-52-3131(代表)

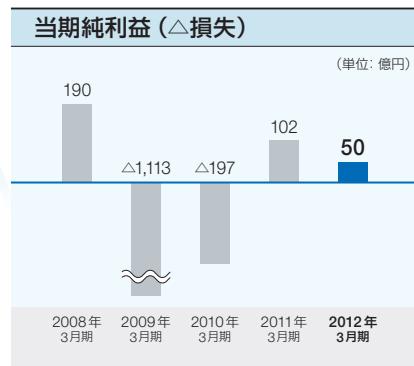
<http://www.epson.jp>

# 経営理念

お客様を大切に、地球を友に、  
個性を尊重し、総合力を発揮して  
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する  
開かれた会社でありたい。  
そして社員が自信を持ち、  
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

(エプソンは経営理念を世界の14の言語に翻訳し、グループ全体で共有しています。)

## 連結財務ハイライト



(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。 2. 自己資本は、純資産から少数株主持分を差し引いて算出しています。

本文中、セイコーエプソングループにつきましては「エプソン」、セイコーエプソン株式会社につきましては「当社」と記載しています。

## ごあいさつ



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2012年3月期の株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

### 当期(2011年4月～2012年3月)の経営活動について

当期を顧みますと、欧米での景気回復の歩調は力強さを欠き、欧州債務危機や急激な円高が進行するなど、不安定な経済状況が継続しました。さらに、東日本大震災やタイでの洪水などの自然災害およびそれらに起因するサプライチェーンの混乱なども加わり、エプソンを取り巻く環境は厳しい状況で推移しました。

このような状況のもと、エプソンは、「SE15前期 中期経営計画」の最終年度にあたる当期において、「新たな成長軌道の確立」に向けた活動を推進してまいりました。

その結果、プリンターやプロジェクターでは、幅広いお客様に向けた製品ラインアップの拡充が進展しました。また、中・小型液晶ディスプレイ事業の終結および水晶事業と半導体事業の機能統合など、デバイス事業における事業構造改革を進めると同時に、グループをあげた総原価低減活動によりコスト構造が改善しました。さらに、独創のコア技術を融合した新ジャンルの製品を投入するなど、新規事業育成にも取り組みました。

当期の業績につきましては、自然災害や円高などの影響を大きく受けることとなり、売上高8,779億円、営業利益246億円、経常利益270億円、当期純利益50億円となりました。

### 利益還元について

株主のみなさまへの利益還元は、安定配当を基本としたうえで、中長期的には連結配当性向30%を目標にして取り組んでまいります。今期の期末配当につきましては、核となる戦略は着実に成果をあげていることから、従来公表のとおり1株当たり前期比3円増配となる13円をご提案いたします。

### 今後の取り組みについて

2012年度を初年度とする「SE15後期 中期経営計画」でも進むべき方向に変更はございません。長期ビジョン「SE15」で掲げた目標達成に向けて、実行のスピードをさらに加速させてまいります(詳細は3ページからの特集をご覧ください)。

最後になりますが、エプソンは、2012年5月に創立70周年を迎えることができました。これもひとえに株主のみなさまをはじめとした多くの方々のご支援の賜物であり、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

今後も、「省・小・精」の技術に磨きをかけ、お客様の生活に感動をお届けし続ける「なくてはならない会社」を目指してまいります。株主のみなさまにおかれましては、引き続きご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2012年5月

代表取締役社長

碓井 稔

# 新たな成長に向けて加速する

エプソンは、2015年のありたい姿をイメージした長期ビジョン「SE15」の実現に向け、事業基盤の再構築に取り組むとともに、再成長に向けたお客様を拓げる活動に取り組んでまいりました。

ここでは、これまでの3年間を振り返るとともに、今後の3年間の取り組みについてご説明します。

## 長期ビジョン「SE15」

### SE15のビジョン・ステートメント

エプソンは、省・小・精の技術を究め極めて、プラットフォーム化<sup>\*</sup>し、強い事業の集合体となり、世界中のあらゆるお客様に感動していただける製品・サービスを創り、作り、お届けする

<sup>\*</sup> プラットフォーム化：共通の基盤となること



エプソンは、培ってきたコア技術をベースに、商品・サービスの提供を通じて、お客様に驚きと感動をお届けし続け、世界中のお客様にとってなくてはならない存在となることを目指しています。そのために、強みを活かせる分野に集中し、事業基盤を徹底的に強化し、「強い事業の集合体」となることを目指しています。

## SE15前期 中期経営計画 (2009年度～2011年度)の成果と課題

### 前期 中期経営計画各年度のゴール

#### 2011年度

- 「SE15」実現に向けた新たな成長軌道の確立

#### 2010年度

- 確実に利益が確保できる企業体質の定着

#### 2009年度

- 経常利益ブレークイブンを目指す
- 長期ビジョンの布石となる事業基盤の再構築

エプソンは、事業構造改革を進めるとともに、プリンターやプロジェクターでは製品ラインアップや事業領域の拡大を進めました。また、総原価低減によりコスト構造が大幅に改善するなど、戦略の方向性に自信を持つことができました。

一方、円高や景気低迷、自然災害などの事業環境の変化により業績は大きなマイナス影響を受けることとなりました。

### 前期 中期経営計画の総括

- 経営の方向性に間違いはなく、着実な成果をあげた  
事業領域・製品ラインアップの拡充、コスト構造の改革
- 事業環境への対応スピードという点で課題が残った  
景気低迷、円高、自然災害影響などへの対応

## SE15後期 中期経営計画 (2012年度～2014年度)

後期の中期経営計画でも進むべき方向性に変わりはありません。前期の実績を踏まえたうえで、さらにその取り組みを加速し、「SE15」で目指す、強い事業の集合体の実現に向けて経営を進めてまいります。

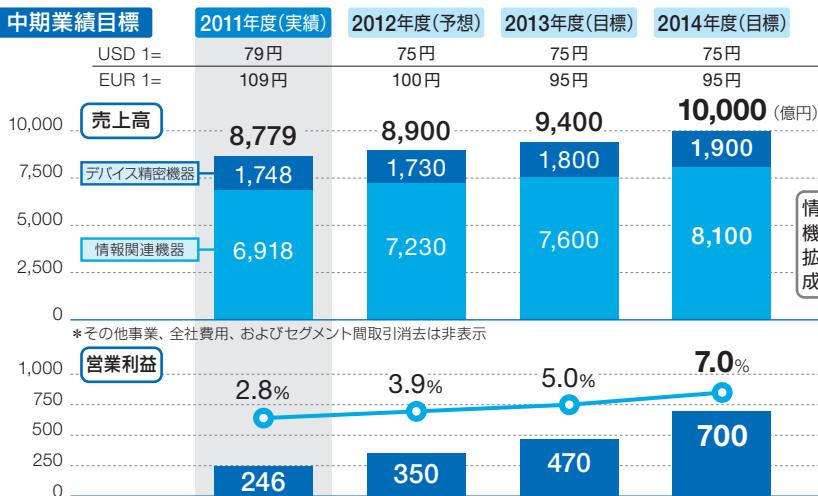
### 中期経営方針

-  マイクロピエゾ技術であらゆる領域のプリンティングを革新する
-  独創のマイクロディスプレイと光学技術で、映像とコミュニケーションの新しい世界を創造し続ける
-  デバイス精密領域は、独自の強みに立脚し、強い製品を創出することで、事業体質を強化しお客様を拡げる
-  新規領域は、強みに立脚し独創のコア技術を創り上げ、最適なかたちで事業化する

「SE15」実現に向けての重要な要素となるのが、マイクロピエゾ、マイクロディスプレイ(高温ポリシリコンTFT液晶パネルなど)やQMEMS\*などの「省・小・精」の技術です。独創のコア技術に磨きをかけ、これらの強みをあらゆる領域に展開することで成長を目指します。

※QMEMSとは  
高安定・高精度などの優れた特性を持つ水晶素材である「QUARTZ」と、「MEMS」(微細加工技術)を組み合わせた造語。水晶素材をベースに精密微細加工を施し、小型・高性能を提供する水晶デバイス。

### 中期業績目標



情報関連機器事業の拡大により成長を果たす

### 「SE15」の目標

売上高成長を前提として

**ROS : 10%**

ROS : 営業利益 ÷ 売上高

**ROE : 継続的に10%以上**

ROE : 当期純利益 ÷ 自己資本

### 主要指標 (2012年度～2014年度累計)

設備投資	1,400億円
フリーキャッシュフロー	800億円

### 株主還元の基本方針

安定配当を基本として中長期的に連結配当性向30%

それぞれの領域についての取り組みは、5～6ページでご紹介いたしますので、続けてご覧ください。



## プリンティング領域

### マイクロピエゾ技術であらゆる領域のプリンティングを革新する

マイクロピエゾ技術は、耐久性やインク・メディアの対応性にも優れ、かつ高速・高精度にインクを吐出することができます。これらの強みを活かし、ホーム領域だけでなく、オフィスや商業・産業領域を含むあらゆる領域のプリンティングを革新していきます。

また、ビジネスシステム事業では、ドットマトリクスプリンターやPOS関連製品での高いシェアを維持しながら、マイクロピエゾ技術によるカラー化やプリンターのインテリジェント化により新たな需要を創出することで、安定的な成長を続けます。



## デバイス精密領域

### デバイス精密領域は、独自の強みに立脚し、強い製品を創出することで、事業体質を強化しお客様を拓げる

QMEMSと半導体との融合により、ボリュームゾーンでの小型化・コストダウンを強化するとともに、インフラ向けや先端領域などの付加価値の高い領域への取り組みを強化し、収益性の向上を実現します。

ウオッチ事業は、強みに注力したことで製品力が強化されました。また、精密機器事業の中には、規模は小さいながらも高い収益性を確保している事業もあります。精密メカトロニクスを磨き、これらの事業を着実に成長させていきます。





## プロジェクション領域

独創のマイクロディスプレイと光学技術で、映像とコミュニケーションの新しい世界を創造し続ける

プロジェクターのあらゆる領域で No.1 となる



\*3LCDとは  
3枚のHTPS(高温ポリシリコンTFT液晶パネル)  
を使って映像を作り出すプロジェクターの方式。

シースルー  
モバイルビューアー  
BT-100

新ジャンル

ミラーレスカメラの  
高精細電子ビュー  
ファインダー

エプソンは、マイクロディスプレイ(高温ポリシリコンTFT液晶パネル)と光学技術でプロジェクター市場を牽引し、世界シェアを拡大し続けてきました。

今後は、ホーム用やオフィス・教育用だけでなく、大ホールや講堂用の超大画面・高輝度プロジェクター分野も含むあらゆる領域でNo.1を目指します。

また、プロジェクター市場を拓ける活動に加え、新しいジャンルの製品を創造し続けることで、お客様を上げていきます。

マイクロディスプレイと  
光学技術を進化させ、  
新たなジャンルの製品を  
創造し続ける

## 新規領域

新規領域は、強みに立脚し、独創のコア技術を創り上げ、最適なかたちで事業化する



あらゆるものを**省**き、  
あらゆるものを**小**さくし、  
あらゆるものを**精**度を高める

エプソンの競争力の源泉である「省・小・精」の技術をプラットフォームとして融合させることで、お客様価値を創り出し、人々の健康や安心と豊かな生活を支援する健康・スポーツ・医療分野や、産業界での生産性を向上させるFA機器・産業機器などの新たな分野へ展開していきます。

エプソンは「省・小・精」の技術を核にした製品・サービスの提供を通し、お客様の生活に驚きや感動をお届けできるよう、引き続き創造と挑戦をしてまいります。

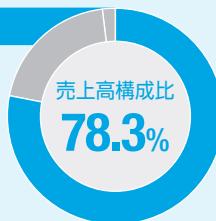
## 事業セグメント別の概況

\*2012年3月期業績の詳細については、「第70回定時株主総会招集ご通知」内の事業報告、または「平成24年3月期決算短信」をご確認ください。

### 情報関連機器事業セグメント

売上高 **6,918** 億円 (前期比3.1%減)

セグメント利益 **648** 億円 (前期比8.7%減)



#### ■ プリンター事業

インクジェットプリンター、ページプリンター、ドットマトリクスプリンター、大判インクジェットプリンターおよびそれらの消耗品、カラーイメージスキャナー、ミニプリンター、POSシステム関連製品など

#### ■ ビジュアルプロダクツ事業 (下期に、映像機器事業から変更)

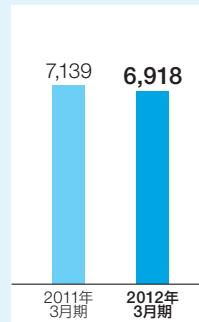
液晶プロジェクター、ラベルプリンターなど(下期に、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルを追加)

#### ■ その他

PCなど

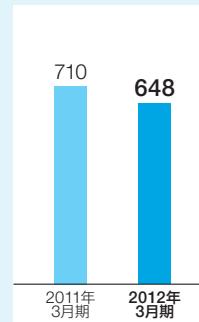
### 売上高

(単位: 億円)



### セグメント利益

(単位: 億円)



### 2012年3月期の主な新商品、開発状況

プリンター事業では、

- カラーオブプリンターにおいて、操作をより簡単に使いやすく進化させ、本体デザインをスタイリッシュに洗練し、様々な利用シーンから快適にお使いいただける商品ラインアップを提供。
- 競争力を高めたビジネスインクジェットプリンターを市場投入し、ラインアップを拡充。高速印刷に加えて、低ランニングコスト・低消費電力を実現。



カラーオブプリンター  
「EP-804AW」



ビジネスインクジェットプリンター  
「PX-1700F」

ビジュアルプロダクツ事業では、

- ご家庭で迫力ある3D映像を大画面で鑑賞したいというニーズにお応えするために、3LCD方式プロジェクターの3D表示に対応した高温ポリシリコンTFT液晶パネルを開発し、ホームシアタープロジェクターの新商品として、エプソン初の3D対応モデルを市場投入。
- メガネのように装着することにより、いつでもどこでも大画面で映像、音楽、Webコンテンツを楽しむことができるシースルーモバイルビューアーを発売。  
(民生用両眼ヘッドマウントディスプレイにおいて世界初となる、他の機器と接続しなくてもコンテンツ視聴可能で、画面と同時に周りの状況を確認できるシースルータイプ)



ホームシアタープロジェクター  
「EH-TW8000」



プロジェクター向け3D表示対応  
高温ポリシリコンTFT液晶パネル



シースルーモバイルビューアー  
MOVERIO「BT-100」

(注) セグメント区分の変更による、主な変更点は以下のとおりです。

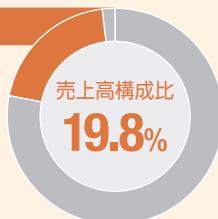
1. 「電子デバイス事業セグメント」と「精密機器事業セグメント」を、期初より「デバイス精密機器事業セグメント」に統合しています。
2. 映像機器事業(情報関連機器事業セグメント)と、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネル(デバイス精密機器事業セグメント)を、下期よりビジュアルプロダクツ事業(情報関連機器事業セグメント)に統合しています。

これらにより、前連結会計年度の金額は、第3四半期連結会計期間(下期)よりのセグメント情報の測定方法で再計算して表示しています。

## デバイス精密機器事業セグメント

売上高 **1,748 億円** (前期比 17.8% 減)

セグメント利益 **46 億円** (前期比 58.8% 減)



### ■ デバイス事業

水晶デバイス事業(水晶振動子、水晶発振器、水晶センサーなど)

半導体事業(CMOS LSI など)

\*液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルは、下期よりビジュアルプロダクツ事業(情報関連機器事業セグメント)へ変更

### ■ 精密機器事業

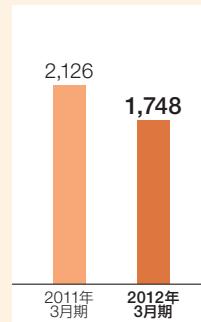
ウオッチ事業(ウオッチ、ウオッチムーブメントなど)

光学事業(プラスチック眼鏡レンズなど)

FA機器事業(水平多関節型ロボット、ICハンドラー、工業用インクジェット装置など)

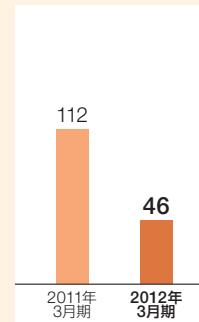
## 売上高

(単位: 億円)



## セグメント利益

(単位: 億円)



## 2012年3月期の主な新商品、開発状況

- 水晶デバイス事業では、水晶微細加工技術を用いて開発した水晶ジャイロ(角速度)センサーと、GPSなど位置情報デバイスで培った半導体技術やノウハウを融合し、世界最小クラス\*の外形サイズと低消費電力を実現した、高精度・高安定な慣性計測ユニット(IMU)を商品化。  
※従来の産業・工業分野向け小型IMU製品との比較(2011年5月末、エプソン調べ)
- ウオッチ事業では、世界で初めて、地球上のあらゆる場所で、いつでもばやくユーザーの位置情報を特定し、現在時刻を取得するソーラー GPS ウオッチを開発。
- FA機器事業では、半導体パッケージの表面にメーカー名や製造番号などの識別情報を、インクジェット方式で印刷するインクジェットマーキングシステムの販売を開始。



慣性計測ユニット(IMU)  
[S4E6A0A0]



ソーラー GPS ウオッチ  
[セイコー アストロン]



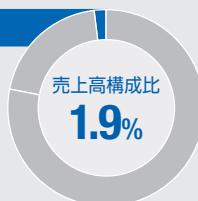
インクジェットマーキングシステム  
[IP-2000]

## その他

売上高 **173 億円** (前期比 71.8% 減)

セグメント利益 **△15 億円** (前期は 35 億円のセグメント損失)

### ■ グループ内サービス業など



7～8ページに掲載の売上高構成比は、2011年4月～2012年3月の内部売上高を含めて算出しています。

## 環境活動：エコプロダクツ2011出展報告

### 「省・小・精」の技術により生み出される新たな可能性を提案

2011年12月15日～17日に東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境展示会であるエコプロダクツ2011。さまざまな企業や団体が最先端のエコ商品や環境技術、CSR活動などを展示・紹介するほか、生物多様性保全や資源問題に関するシンポジウムなども開催されました。

ここでは、3日間で約18万人が来場したエコプロダクツ2011におけるエプソンブースをご紹介します。

#### 体験型講座でリサイクル学習

小中学生を対象にプリンターの分解を通じて製品が素材別にリサイクルされる工程を学習する体験型講座も開設しました。また、ステージ発表では、「環境ビジョン2050」と「インクカートリッジの旅」をプロジェクターのインタラクティブ機能を活用して解説しました。



子供たちも熱心に聞いてくれました。

#### インクカートリッジリサイクル展示

インクカートリッジリサイクルプロジェクトに関連して、エプソンのインクカートリッジがリサイクルされ、新たにプラスチック製品に生まれ変わるまでの工程を紹介しました。ブースに設置された回収ボックスに持参したインクカートリッジを投入する姿も多く見られました。



リサイクルの工程をわかりやすく説明。



プロジェクターによるパネルレス展示。



アカウミガメ保護活動の様子を紹介。

#### 廃棄物を削減、省エネ展示

展示方法も工夫して「パネルレス展示」を実現させました。超短焦点プロジェクターを活用して、環境情報や製品情報をフレキシブルにお伝えしました。環境面以外では、「写真のはがきで、会いましょう。」でおなじみの、絆プロモーションに関する展示も併せて行われました。

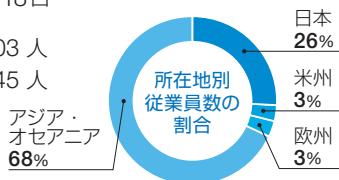
#### 3Dシアターで環境活動PR

ブース中央に暗室を作って「3Dシアター」を設置しました。ホーム向けプロジェクター「ドリーミオ」による迫力の3D映像を体感していただくと共に、以前に株主通信でもご紹介した「アカウミガメ保護活動」などの環境活動をPRしました。

# 会社情報 / 株式情報 (2012年3月31日現在)

## 会社概要

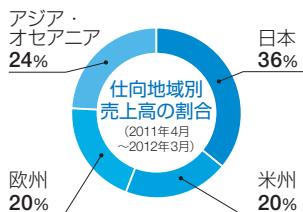
本社	〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 TEL: 0266-52-3131(代表)
本店	〒163-0811 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号新宿NSビル TEL: 03-3348-8531(代表)
資本金	532億4千万円
創立	1942年5月18日
従業員数	連結: 75,303人 単体: 13,045人



グループ会社 97社(当社を含む)

### 国内関係会社

エプソン販売株式会社  
エプソンダイレクト株式会社  
エプソントヨコム株式会社  
東北エプソン株式会社  
秋田エプソン株式会社  
他 16社



### 海外関係会社

U.S.Epson, Inc. (地域統括)  
Epson Europe B.V. (地域統括)  
Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)  
Epson Singapore Pte. Ltd. (地域販売統括)  
Epson America, Inc. (販売)  
Epson France S.A. (販売)  
Epson Precision (Hong Kong) Ltd. (製造)  
Singapore Epson Industrial Pte. Ltd. (製造)  
P.T. Indonesia Epson Industry (製造)  
Epson Precision (Philippines), Inc. (製造)  
他 65社

## 役員

取締役ならびに監査役		業務執行役員	
取締役会長	花岡 清二	業務執行役員常務	小松 宏 John Lang 上柳 雅誉
取締役副会長	服部 靖夫		
取締役社長 (代表取締役)	碓井 稔	業務執行役員	酒井 明彦 森 昭雄 小池 清文 宮川 隆平 遠藤 鋼一 田場 博己 久保田 孝一 奥村 資紀 小口 貴 井上 茂樹
取締役副社長 (代表取締役)	両角 正幸		
専務取締役 (代表取締役)	久保田 健二		
常務取締役	矢島 虎雄 平野 精一 羽片 忠明		
取締役	濱 典幸 福島 米春		
常勤監査役	内田 健治 小口 徹		
監査役	山本 恵朗 石川 達敏 宮原 賢次		

## 株式の状況

発行可能株式総数	607,458,368 株
発行済株式総数	199,817,389 株
株主の総数	36,971 人

## 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三光起業株式会社	14,288	7.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,742	7.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,310	4.64
セイコーホールディングス株式会社	7,948	4.44
セイコーエプソン従業員持株会	6,334	3.54

(注) 1. 当社は自己株式20,924千株を所有していますが、上記の大株主から除外しています。  
2. 持株数は、千株未満を切り捨てています。  
3. 持株比率は、自己株式を控除して計算し、小数点以下第3位を切り捨てています。